

4. ラテラル・シンキング ()

①ラテラル・シンキングの定義

【定義】
 ・ラテラル : _____ な
 ・シンキング : _____ (すること)

ラテラル・シンキングとは、思考の制約となる既成概念や固定観念を取り払い、水平方向に発想を広げる思考法です。そのため、斬新でユニークなアイデアや発想に向いています。これは、昔から日本人が好きな「とんち」と同じ思考です。一休さんの話題は皆さん知っていて、好意的なエピソードとして語り継がれています。このように、ラテラル・シンキングは日本文化と相性が良いものともいえます。

まずは一つ、以下の例題を考えてみましょう。

例題 1
 3 人の子供に 13 個のオレンジを公平に分けるにはどうしたらいいでしょうか？

.....

.....

.....

※自分の案が出たら、他の人とも話し合ってみましょう。

例題からみるラテラル・シンキングの特徴として、以下が挙げられます。

- ・思考するときに () といった前提を一切持たない。
- ・結論を導く過程は問題にしないため、思考によっては () 一気に結論に辿り着く場合もある。
- ・問題解決に繋がるのであれば、どれも正解として () の結論があってもよい。
- ・既成の枠を取り外して思考するため、今までにない結論を導くことができる。
- ・実行した結果、大きな成果が出る場合と出ない場合がある。

ロジカル・シンキングとの違いは、思考の前提と過程にあります。ロジカル・シンキングは垂直思考とも呼ばれ、既成概念を基に筋道を立てて深く掘り下げて考えるため、論理的に正しい結論は 1 つです。

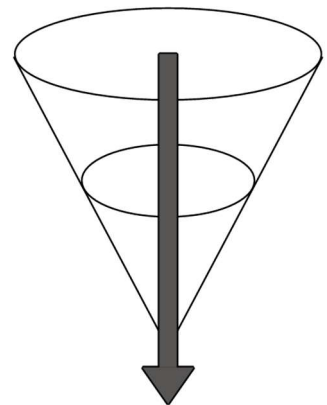
一方、ラテラル・シンキングは既成概念に囚われず、多角的な視点と自由な発想で創造的な問題解決を図るため、結論は 1 つではありません (右図)。

クリティカル・シンキングとの違いは、思考の過程にあります。クリティカル・シンキングでは、思考する前提や過程、論理に渡って「本当にそうだろうか？」と問い続けながら思考します。テクノロジーの進化により世の中の仕組みや常識が常に変化していく現代において、物事に対して「なぜそうなのか」「本当にそうなのか」ということを考えることは重視されています。「当たり前」に対して疑問を問いかけるクリテ



一休さんエピソード
 「このはしわたるべからず」

ロジカル・シンキングとラテラル・シンキングの違い



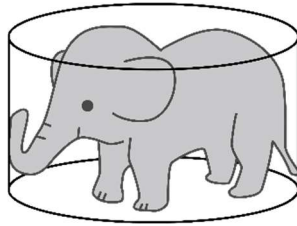
ィカル・シンキングは、新しいアイデアを打ち出すうえでは必要な思考です。一方、ラテラル・シンキングは既成概念や常識の枠を外して、多角的にとらえて自由に思考します。

もう一つ、例題を考えてみましょう。

例題 2

ある村で大切に飼われている子象がいます。貴重な観光資源であり労働力として可愛がられていました。ところが、何かの拍子に逃げ出します。あわてて追いかけたのですが、古い枯れた井戸にすっぽりと落ちてしまいました。背中が見えるほど浅い井戸なので怪我はなさそうです。ただし子象一頭がぎりぎりの広さです。

子象の胴にロープを回してトラックで引っ張り出そうとしましたが、井戸に入ろうとすると暴れて人が潰されてしまいました。ショベルカーで掘り起こそうとしましたが、砂地なので井戸そのものが崩れてしまいます。



さて、あなたなら、どうやって子象を救出しますか？

.....

.....

※自分の案が出たら、他の人とも話し合ってみましょう。

今までに紹介した3つの思考法はそれぞれ異なる思考法であり、それぞれ強みを発揮できる分野が異なります。ラテラル・シンキングは今までにない新しい発想や問題解決に、ロジカル・シンキングは筋道のある現実に即した問題解決に強みを発揮します。そしてクリティカル・シンキングは問題解決の精度を上げることが出来ます。

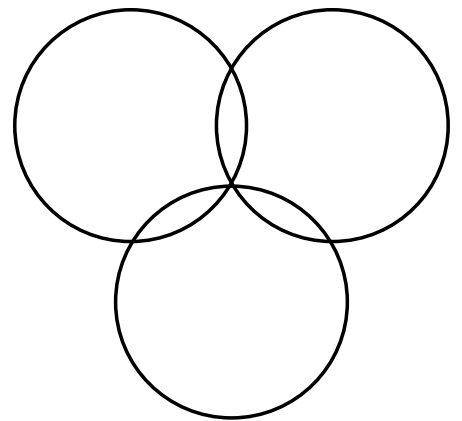
以上をまとめると、まずはラテラル・シンキングで考え、次にロジカル・シンキングで正しい1つの結論に導く形で活用することで、思考法として相互補完することができます。その時に、クリティカル・シンキングを活用することで、精度の高い結論に導くことができるでしょう。このように、これらの思考法は三位一体で扱うことで相乗効果を生み出すことができるものです (右図)。

それぞれの思考法のアプローチとして、以下のような方法があります。

- ・ロジカル・シンキング：
- ・クリティカル・シンキング：
- ・ラテラル・シンキング：

今後、授業の中でこれらを体験しながら各思考法を身につけていきましょう。

三位一体思考理論



【振り返り】
 今回の活動を通して「自分の中で強化された」と感じるものに☑
 (いくつでも可)

項目	自己評価
<input type="checkbox"/> 批判的に考える力	A・B・C・D
<input type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力	A・B・C・D
<input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力	A・B・C・D
<input type="checkbox"/> 他者と協力する態度	A・B・C・D
<input type="checkbox"/> 進んで参加する態度	A・B・C・D

【観点】
 A…非常に躍進した
 B…とても力がついた
 C…以前より力がついた
 D…さほど大差ない (実感が無い)。

アイデアを生み出す

課題解決をしていく中で、論理的な考え方だけでは、なかなか有効な解決策が浮かばないことがあります。そういう場合は、視点を変えて課題を見ることで、新たな発想や良いアイデアが生まれることがあります。このような考え方は（ ）と呼びますが、今回はラテラル・シンキングを用いて、良いアイデアを生み出すことに慣れていきましょう。

（例題1）病院のクマさん

ここは小児科の病院です。待合室には子供達が遊ぶためのぬいぐるみが、たくさん置いてあります。中でも1番人気なのはクマのぬいぐるみで、人気のあまり、病院から持って帰ってしまう子供もいました。看護師達は、子供達に口頭で注意していたが、効果が無いといえます。

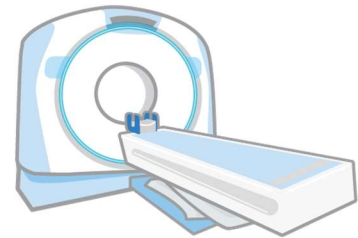
さて、どうしたら良いのでしょうか？



例題2）小児科のMRI

あなたは小児科病棟のMRI技師です。担当しているのは小児科であるため、小さな子供をMRIで検査することが多い。しかし子供はMRI設備を怖がり泣いてしまう子もいるため、仕事がかどらずに悩んでいます。

さて、どのような解決策があるのでしょうか？



さまざまな考えが浮かぶと思います。中には実際に実現可能なものもあるでしょう。しかし、ここで重要なのは、いわゆる“普通”の考えにとどまるのではなく、視点を変えて考えることです。

「普通だったら○○だけど、もしかしたら××といったことも良いかも」

というふうに考えることで、発想の幅が広がると思います。このように発想を変えて成功した例は、世の中にいくつもあります。次にそれらの一例を紹介していきたいと思います。

前提を疑う事で成功した企業とその事例

1. Apple

【前提】

- ・携帯電話は物理ボタンを配するのが当たり前
- ・ネットはパソコン等の端末で行う事が主流
- ・携帯電話の主な役割は電話やテキストメッセージを行うもの
- ・音楽はMP3プレーヤー等の音楽端末で聴くもの

⇒ 前提を疑った結果できた新しいもの：

2. Microsoft

【前提】

- ・パソコンはビジネスや一部コアなユーザーの物である
- ・パソコンは操作が難しい
- ・パソコンはそもそも一般家庭には無用の長物である
- ・ネット環境は限定的、一般家庭にまで普及させるのは難しいだろう

⇒ 前提を疑った結果できた新しいもの：

3. セブンイレブン (セブンアンドアイ)：

【前提】

- ・本格的なコーヒーは喫茶店やカフェで飲むもの
- ・本格的なコーヒーは高い
- ・コンビニで提供できるコーヒーは缶やペットボトル

⇒ 前提を疑った結果できた新しい商品：

異質なものを同士を組み合わせる

- アイスクリームのコーンの例：
- ホットドッグが生まれた経緯：
- 味噌ラーメンが生まれた経緯：
- 電話のカメラ機能：
- ○○喫茶：
- ○○カフェ：

「ダメな部分」に隠れている宝物を探す

- 曲がりキュウリの例：
- 負債に押しつぶされた夕張市の例：

【振り返り】

今回の活動を通して「自分の中で強化された」と感じるものに☑
(いくつでも可)

項目	自己評価
<input type="checkbox"/> 論理的に考える力	A・B・C・D
<input type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力	A・B・C・D
<input type="checkbox"/> 批判的に考える力	A・B・C・D
<input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力	A・B・C・D
<input type="checkbox"/> 他者と協力する態度	A・B・C・D
<input type="checkbox"/> 進んで参加する態度	A・B・C・D

【観点】

- A…非常に躍進した
- B…とても力がついた
- C…以前より力がついた
- D…さほど大差ない (実感がない)。